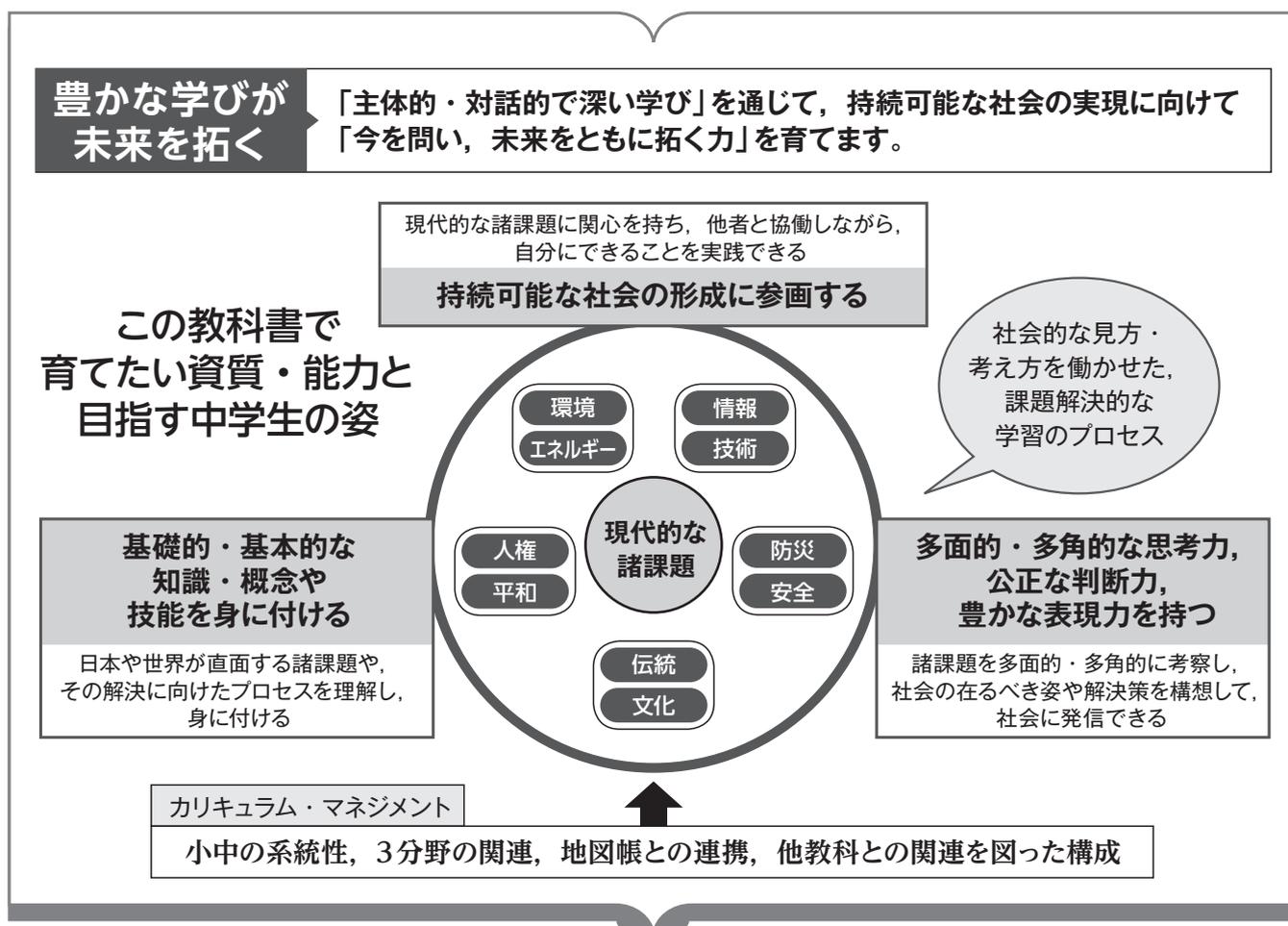


# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-36	中学校	社会	社会(公民的分野)	第3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	公民901	新しい社会 公民		

### 1. 編修の基本方針



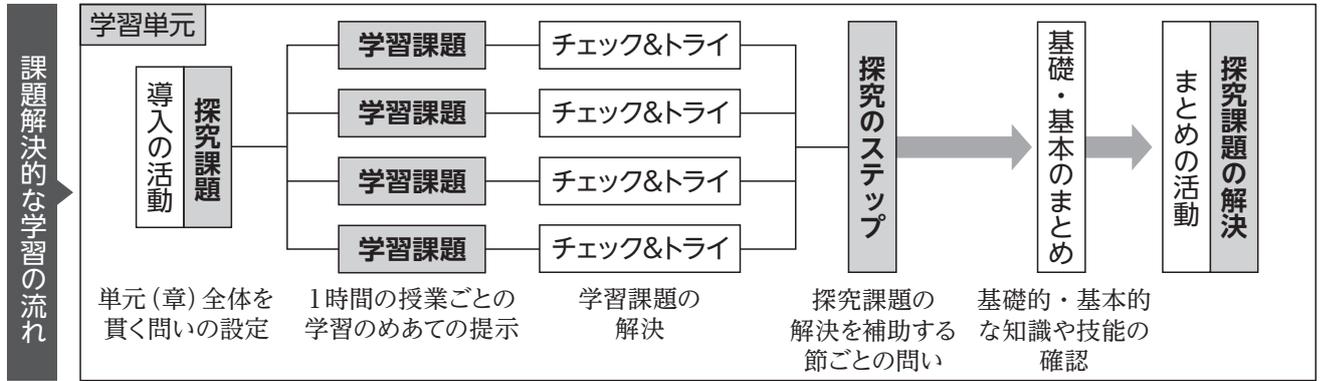
1. 教育基本法の「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」の育成という教育の目的に資するために、以下の資質・能力を育成できるようにしました。
  - ① 社会に対する関心を高め、現代社会の在りようや、我が国や世界が直面する現代的な諸課題を正しく認識するための、社会科の基礎的・基本的な知識や概念、技能を確実に身に付けられます。
  - ② 我が国や世界が直面する現代的な諸課題を考察し、解決策を考えるための、多面的・多角的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身に付けられます。
  - ③ グローバル化や人工知能といった技術革新、少子高齢化など、急速に変化する現代社会にあって、我が国や世界が直面する諸課題を他者と協働して解決し、持続可能な社会を実現するための、主体的に社会に参画する意識や態度を養えます。
2. 効果的なカリキュラム構成のために、以下の点に留意しました。
  - ① 小・中学校を合わせた7年間で学習する「社会科」の位置付けを重視し、小学校社会科との系統性を高め、中学校社会科の地理・歴史・公民3分野の関連を図り、併せて地図帳と連携した学習を展開できます。
  - ② カリキュラム・マネジメントの観点から、他教科の学習内容との関連を図り、中学校での学習全体で教育の目的が実現できます。

**特色 1 知識・概念や技能の定着 確実な定着に導く知識・技能の体系化**

- ・ 中学校社会科で習得すべき知識や概念を、発達段階に応じて過不足なく盛り込みました。特に、公民学習を進める上で生徒がつかずきやすい事項は、巻末の「用語解説」で補足説明し、確実に定着できます。
- ・ 公民学習に必要な技能については、メディアリテラシーなどの資料の読み取り方や資料収集の方法などを「スキル・アップ」で紹介し、活用するコーナーも設けることで、発達段階に応じて確実に定着できます。

**特色 2 思考力・判断力・表現力の涵養 「問い」を軸にした課題解決的な構成と見方・考え方の活用**

- ・ 各単元(章)の学習を、単元全体を貫く問いである「探究課題」と、節ごとの課題である「探究のステップ」、1単位時間の学習のめあてである「学習課題」の3段階の問いで構造化し、細かいステップで課題を解決していくことで、思考・判断した内容を、適切に表現する力を身に付けられます。



- ・ 公民学習の基礎となる、地理・歴史を受けた「持続可能性」「位置や空間的な広がり」「推移や変化」や公民で学習する「効率と公正」「民主主義」「分業と交換」といった現代社会の見方・考え方をしっかり捉え、「チェック&トライ」「探究課題の解決」などの様々な学習場面で働かせることで、思考・判断を深められます。

**特色 3 課題を解決し未来を拓く力の育成 持続可能な社会の形成に主体的に参画する力の育成**

- ・ 領土をめぐる問題や地球環境問題など、我が国や国際社会が抱える現代的な諸課題を取り上げることで、その背景や経過に目を向けながら、解決策について具体的に考えられます。
- ・ 公民学習の過程で「みんなでチャレンジ」などの対話的な学習の場面を設けたり、3年間の社会科学習のまとめとして、より良い社会の在り方について構想したりすることで、知識・概念、技能や思考力・判断力・表現力を活用して積極的に社会参画し、他者と協働しながらより良い社会を築こうとする意識と態度を養えます。

**特色 4 カリキュラム・マネジメント 小中の系統性、3分野の関連、地図帳との連携、他教科との関連**

- ・ 各単元(章)の導入部に、小学校社会科や地理・歴史で学習した内容を用語や写真で振り返る活動を設けることで、小学校の学習から中学校の学習へと円滑に接続でき、また、地理・歴史の学習との関連を意識しながら効果的に公民の学習を進められます。
- ・ 持続可能な社会の実現のために解決すべき、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」に関わる課題を、特設ページ「もっと地理・歴史・公民」に3分野共通で取り上げることで、地理・歴史・公民それぞれの視点から考察できます(下表)。

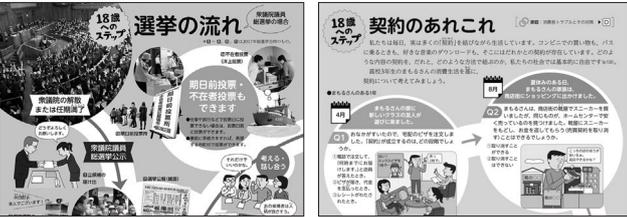
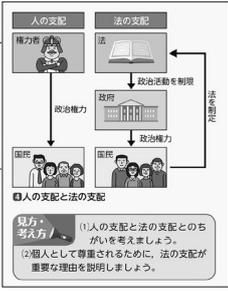
●3分野の関連で扱った「もっと地理・歴史・公民」

テーマ/教材	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
環境・エネルギー 日本のエネルギー問題	日本のエネルギーのあらまし	日本のエネルギーのこれまで	これからの日本のエネルギーを考える
人権・平和 アイヌ民族	現代に受けつがれるアイヌ民族の文化	アイヌ文化とその継承	先住民族としてのアイヌ民族
伝統・文化 オリンピック・パラリンピック	オリンピック・パラリンピックと東京	オリンピック・パラリンピックと日本	オリンピック・パラリンピックと日本の心
防災・安全 震災・復興	震災から命を守る	震災の記憶を語りつぐ	東日本大震災からの復興と防災—仙台市を例に考える
情報・技術 情報化による社会の変化	情報化がアフリカ社会を変える	メディアの発達が日本を変えた	新しい情報技術で社会が変わる

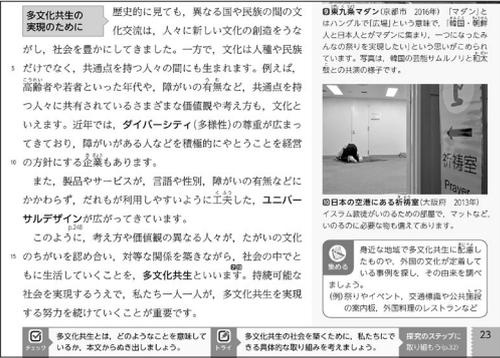
- ・ 同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連をマークで示すことで、一つの事象を地理・歴史・公民の各分野の視点から多面的・多角的に考察する力を育てられます。
- ・ 3年間の社会科学習全体で、教科用図書地図との連携を図り、学習内容の理解を深められます。
- ・ 他教科の学習との関連箇所にはマークを付して連携を図ることで、社会的事象について多面的・多角的に考察できます(本紙5ページ参照)。

## 2. 対照表

○教育基本法第2条の各号に定められた教育の目標を実現するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p><b>各単元に共通する内容</b></p> <p><b>18歳へのステップ</b></p>	<p>・選挙権年齢と成年年齢の満18歳以上への引き下げに対応して、実際の選挙の流れや契約における注意点を理解できる「18歳へのステップ」を設けました。実物資料や身近で具体的な設定のクイズを豊富に紹介しながら、ビジュアルな紙面で効果的に主権者意識を高められます(第3号)。</p>  <p>↑88ページ ↑136ページ</p>	<p>88-89, 136-137ページ</p>
<p><b>もっと公民</b></p>	<p>・本文での学習内容に関連した「もっと公民」を設け、本文の学習内容を基に、もっと深めたり、広げたり、異なる視点で捉えたりしながら学習できます(第1号)。</p>	<p>16, 74, 126ページなど全体で9教材</p>
<p><b>見方・考え方</b></p>	<p>・現代社会の見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりして、より深い思考・判断ができます(第1号)。</p> <p>→41ページ</p> 	<p>20, 41, 103, 176ページなど全体で60か所</p>
<p><b>みんなでチャレンジ</b></p>	<p>・小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を設けることで、本文での学習内容を確実に理解させ、話し合いなどの対話的な活動を通じて多様な意見に触れながら学習を深め、価値判断や意思決定を行えます(第1号・第2号)。</p> <p>→9ページ</p>	<p>9, 65, 169ページなど全体で21か所</p>
<p><b>スキル・アップ</b></p>	<p>・具体的な資料を使って、学習に必要な技能を身に付けさせる「スキル・アップ」を、「集める」「読み取る」「まとめる」の三つの側面で設け、公民学習に必要な技能を確実に定着できます(第1号)。</p> <p>→133ページ</p> 	<p>85, 101, 133, 151ページなど全体で9か所</p>
<p><b>集める</b> <b>読み取る</b> <b>まとめる</b></p>	<p>・小学校社会科や「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用して取り組む場面には、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーなどを設け、各技能を定着・習熟できます(第1号)。</p>	<p>18, 84, 115, 212ページなど全体で47か所</p>
<p><b>公民にアクセス</b></p>	<p>・本文での学習内容を補充する「公民にアクセス」を設け、関連した知識を確実に習得できます(第1号)。</p>	<p>57, 85, 173ページなど全体で48か所</p>
<p><b>平易な文章</b></p>	<p>・幅広い視野から社会的事象の意味を確実に理解し、考察できるように、文章を平易に記述しました(第1号)。</p>	<p>全体</p>
<p><b>国宝</b> <b>重要文化財</b> <b>世界遺産</b> <b>世界の記憶</b> <b>無形文化遺産</b></p>	<p>・歴史の中で残されてきた国宝や重要文化財、世界自然遺産・文化遺産、世界の記憶、無形文化遺産にはマークを付すことで、我が国や世界の伝統と文化に目を向け、尊重する態度を養えます(第5号)。</p> <p>→207ページ</p> 	<p>全体</p>
<p><b>単元ごとの内容</b></p> <p><b>巻頭・巻末</b></p>	<p>・環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術などに関する題材と、それらの解決に取り組む人々の姿を取り上げることで、急速に変化する現代社会の中で、伝統と文化を尊重し、人権の尊重や環境の保全、国際社会の平和と発展を目指すことの重要性を意識しながら、主体的に社会に参画する態度を養えます(第3号・第4号・第5号)。</p> <p>・日本各地の無形文化遺産を取り上げることで、日本の伝統と文化に対する理解を深められます(第5号)。</p>	<p>巻頭1-巻頭2ページ 巻末2-巻末3ページ  巻末1ページ</p>

<p>第1章 現代社会と 私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシーや情報モラルなどの技能を、他教科(技術)と関連させながら、具体的な事例を通して身に付けられます(第1号、第2号)。</li> <li>・持続可能な社会の形成について取り上げることで、環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術などに関する課題の解決の必要性や、一人一人の社会参画の重要性を意識できます(第3号・第4号・第5号)。</li> <li>・現代社会における多様性や文化の意義について理解することで、他者や異なる文化を理解し尊重し合う態度の重要性を理解できます(第2号・第5号)。</li> <li>・他教科(道徳)と関連させながら、我が国の伝統や文化に関する教材や、伝統文化の継承に取り組む中学生の姿を取り上げることで、我が国や郷土に対する誇りと愛情、伝統文化の継承者としての自覚と態度を養えます(第3号・第5号)。</li> </ul> <p style="text-align: right;">→23ページ</p>	<p>15 ページ</p> <p>8-9 ページ</p> <p>18-23 ページ</p> <p>8, 20-21ページ</p>
<p>第2章 個人の尊重と 日本国憲法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法の意義と日本国憲法の構成を大きく捉えさせることで、主権者である国民が、互いの権利を尊重し、義務を果たしながら、平和で民主的な国家・社会の形成に参画していることを理解できます(第1号・第3号)。</li> <li>・日本国憲法の保障する基本的人権について丁寧に説明し、インクルージョンの観点を踏まえながら、男女の平等や高齢者、障がい者、外国人との共生について考えさせることで、自他を敬愛し、人権を尊重する態度を養えます(第2号・第3号)。</li> <li>・産業の発展に伴い環境権が主張されるようになったことについて、具体的な事例を通じて理解できます(第4号)。</li> </ul>	<p>40-45, 60-61 ページなど</p> <p>48-59ページなど</p> <p>62 ページ</p>
<p>第3章 現代の民主政治 と社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙権年齢の満18歳以上への引き下げに対応し、民主主義の意義や選挙、裁判員制度の仕組み、メディアリテラシーなど、将来、主権者として政治に関わるための知識や能力を、多様な活動を通じて確実に身に付けられます(第1号・第2号・第3号)。</li> <li>・身近な地域の課題の解決について調べる活動や、東日本大震災からの復興への取り組みについて、他教科(理科・保健体育・道徳)の学習と関連させながら多面的・多角的に考えることなどを通じて、郷土に対する理解を深め、地域づくりに積極的に参画する態度を養えます(第3号・第5号)。</li> </ul>	<p>76-89, 104-107, 122-123 ページなど</p> <p>118-119, 124-125ページなど</p>
<p>第4章 私たちの 暮らしと経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年年齢の満18歳以上への引き下げに向けて、他教科(家庭)と関連させながら、消費者問題や消費者の権利について、具体的な事例、活動等を通じて、必要な知識や能力を身に付けられます(第1号・第3号)。</li> <li>・労働や雇用について、具体的な事例を掲載することで、職業や労働への理解を深め、自らの在り方・生き方について考えられます(第2号)。</li> <li>・市場経済や為替相場などの抽象的な事項については、「スキル・アップ」の作業を通じて確実に理解できます(第1号)。</li> <li>・公害問題について、防止の取り組みや、環境保全の国や地方公共団体の取り組みを取り上げることで、個人・企業などがなすべきことについて考えられます(第4号)。</li> </ul>	<p>130-137ページ</p> <p>146-149ページ</p> <p>150-151, 160-161 ページ</p> <p>170-171, 178 ページなど</p>
<p>第5章 地球社会と 私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の活動で、これまでの学習と結び付けながら「持続可能な開発目標(SDGs)」について理解した上で、地球環境・エネルギーの問題や、解決のための国際協力、我が国の政策の在り方について、他教科(理科)と関連させながら多面的・多角的に考えられます(第1号・第2号・第4号)。</li> <li>・貧困や紛争、難民、我が国の領土をめぐる問題など、国際平和のために解決すべき課題について詳しく説明することで、平和な国際社会に向けて、我が国や一人一人が果たすべき役割について考えられます(第3号・第5号)。</li> <li>・国際社会における文化の多様性と宗教間の対立について具体的な事例を取り上げることで、異なる文化を理解し尊重する態度を養えます(第5号)。</li> </ul> <p style="text-align: right;">→180ページ</p>	<p>180-181, 192-197 ページ</p> <p>198-203, 212, 184-185, 204-205ページなど</p> <p>206-207ページ</p>



終章 より良い社会を 目指して	・ 調べ学習の過程やポイントを丁寧に説明することで、探究的な学習を、主体的に進められます(第1号・第2号)。	215-217 ページ
	・ 身近な地域を調べる過程で、グループでの話し合いや発表の場面などを充実させることで、他者を尊重し、協力する態度を育てられます(第2号)。	216 ページ
	・ 「探究を続ける」から、探究の成果を社会参画や自己の将来の在り方・生き方へと結び付けて考えられます(第2号・第3号)。	218 ページ
	・ 社会科学習の成果を生かし、持続可能な社会の実現に向けて、環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術などの多様な側面から追究し、一人一人ができることについて考えられます(第3号・第4号・第5号)。	214-217 ページ

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### ■ 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮 ～特別支援教育への配慮やユニバーサルデザインの取り組み～

##### 紙面の読み取りやすさの向上

- ・ 特別支援教育の観点から、立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、従来掲載していたキャラクターを本文ページからなくすことで、学習者が学習に必要な情報に集中できるようにしました。
- ・ 資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させました。
- ・ ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用することで、文字の視認性を向上させました。
- ・ 振り仮名には読み取りやすいゴシック体を採用し、視認性をしっかりと確保した上で、黒色を抑えることで、振り仮名が多い文章での雑然とした印象を軽減し、読み取りやすさを向上させました。



##### 色覚特性への配慮

- ・ グラフや地図などでは、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用しました。また、文字に縁取りをしたり、凡例を使用せずに図中に直接示すようにしたり、グラフでは読み取りづらい破線や点線を減らしたりしました。

#### ■ 今日的な課題への取り組み ～五つのテーマで持続可能な社会の実現に向けた諸課題を捉えられる～

- ・ 本紙2ページの表で挙げた、3分野の関連で扱っている内容をはじめ、「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を「公民にアクセス」や「もっと公民」などで取り上げ、テーマをマークで示すことで、現代社会の諸課題を捉え、その解決に向けた構想ができるようにしました。▶ 36, 51, 74, 178ページなど
- ・ 再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮しました。



▶36ページ

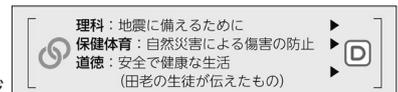
#### ■ 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み ～より良い指導や学びをサポートする～

##### 指導しやすさ・学びやすさの確保

- ・ 様々な教科の教科書を持ち歩く生徒の負担に配慮して、過度な重量にならないように、ページ数を抑え、軽くて裏写りせず、強度の高い紙を使用しました。
- ・ 必要な学習内容をしっかりと確保しながら、単元や1単位時間の紙面の構造を明確化することで、先生方の教材研究や授業準備の時間を短縮できます。
- ・ 資料には見開き単位で通し番号を付け、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど、先生方が授業で指示しやすくなっています。

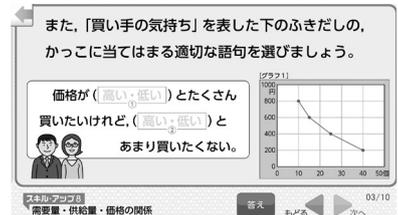
##### カリキュラム・マネジメントの支援

- ・ 社会科以外の様々な教科でも取り扱っている学習内容には、マークを付すことで、他教科の学習との連携を通して、社会的現象や現代的な諸課題を、より深く理解できます。▶ 14, 125, 136, 194ページなど



##### 教育のICT化への取り組み

- ・ インターネットを活用した学習が効果的な部分にはDマークや二次元コードを付して、専用のウェブページなどから、学習をサポートする情報が得られます。関連する他分野の紙面や、他教科の紙面も参照できます。▶ 81, 151, 184ページなど
- ・ 制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。



↑151ページのDマークのコンテンツ

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

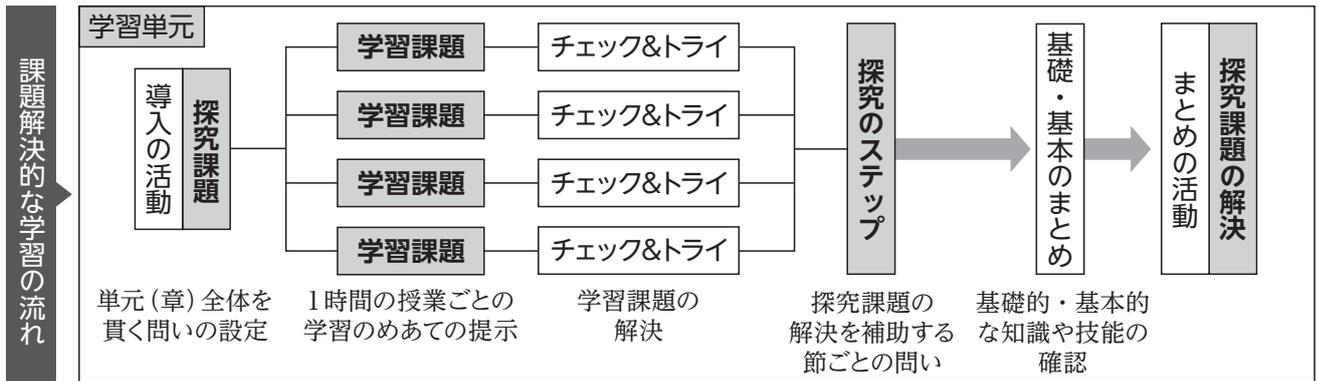
※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-36	中学校	社会	社会(公民的分野)	第3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
2 東書	公民901	新しい社会 公民		

### 1. 編修上特に意を用いた点や特色

#### 1 ▶ 新学習指導要領の改訂点への対応

① 構造化された「問い」を軸にする課題解決的な単元構成で、「主体的な学び」が実現できる

● 各単元(章)の導入部で、導入の活動を通して単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間の「学習課題」や「チェック&トライ」、節ごとの課題である「探究のステップ」の積み重ねを通じて解決する、「問い」を軸に構造化された課題解決的な学習の流れで、生徒の思考力・判断力・表現力を効果的に高められます。



**導入の活動／探究課題** 各単元(章)の導入部では、多様な活動を通して「探究課題」を立てることで、学習内容への興味・関心を高めながら円滑に学習に入れます。 ➡76-77ページ(単元の導入部)

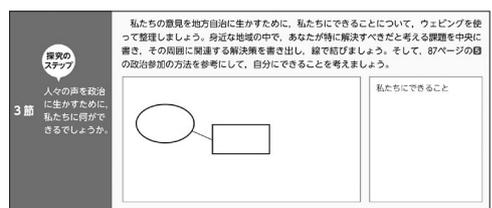
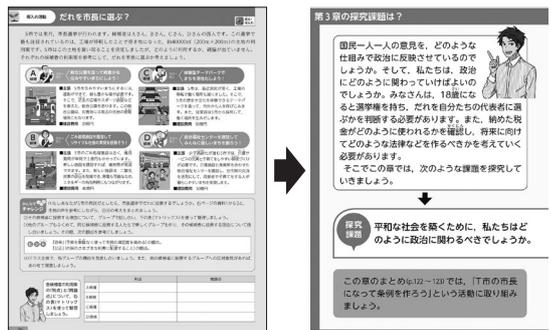
**学習課題／チェック&トライ** 1単位時間の学習では、学習のめあてとなる「学習課題」を提示し、学習の終わりに、基礎事項を確認する「チェック」と、要約や説明などをする「トライ」の2段階の問いで学習課題を解決することで、学習内容の定着が図れます。

4 住民参加の拡大と私たち 住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされているのでしょうか。 ➡116ページ(学習課題)

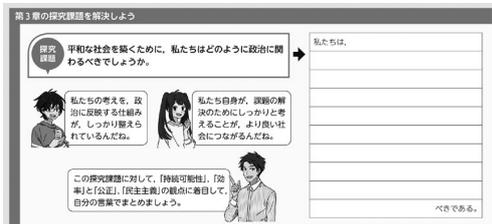
住民が、地方公共団体の政治に参加する方法を挙げましょう。 住民参加が必要な理由を、「民主主義」の観点から説明しましょう。 ➡117ページ(チェック&トライ)

**探究のステップ** 各節の冒頭で「探究のステップ」の問いを示し、「探究のステップの問いを解決しよう」で学習内容を振り返って整理することで、1単位時間の学習の積み重ねを、「探究課題の解決」へと円滑につなげられます。

**まとめの活動／探究課題の解決** 各単元(章)の終結部には「まとめの活動」を設け、「思考ツール」を使って学習内容を整理しながら、単元を貫く「探究課題」を、無理なく解決できます。



↑120ページ(探究のステップ)



↑122-123ページ(単元の終結部)

②小集団での参加型学習のコーナーで、「対話的な学び」が実現できる

●小集団での参加型学習である「みんなでチャレンジ」を、課題追究のポイントとなる1単位時間の学習や「導入の活動」「まとめの活動」などに設け、対話的な学習の場面を作ることによって、他者との協働を通じて思考力・判断力・表現力を高められます。

➡ 9, 65, 169ページなど

➡169ページ

**みんなでチャレンジ** 日本の社会保障と財政の在り方を考えよう

(1) 社会保障費と国民の経済的負担との関係を、aから読み取りましょう。  
 (2) これからの日本の社会保障の在り方について、次のAからDの意見から、最も良いと思うものを一つ選び、理由もふくめてグループで意見交換しましょう。  
 A 北ヨーロッパの国々のように、現在よりも社会保障を充実させ、そのために、国民の負担も大きくすべきである。  
 B 現在の社会保障の水準を維持して、そのために国民の負担が増えるのはやむを得ない。  
 C 現在の国民の負担の水準を維持して、そのために社会保障を現在よりしぼりこむことはやむを得ない。  
 D アメリカなどのように、現在より国民の負担を少なくし、そのために、社会保障をしぼりこむべきである。

(3) 社会保障の給付と負担は、どのように配分し、分担されるべきでしょうか。次のaからcの意見について、「効率的」と「公正」の観点からまとめて、取り入れる優先順位を考えましょう。

a 子育てにはお金がかかります。少子化の懸念を改善するために、子育て世代への手当を充実させて、負担を軽くしてほしいです。

b 最近若者の就職先が少なく、雇用が不安定です。働く人たちの支援を充実させる一方で、負担はどの世代も平等にしてほしいです。

c 仕事を定年退職すると、生活費が年々たまっていくので、年金や介護を充実させて、高齢者の負担を軽くしてほしいです。

③見方・考え方を捉え、働かせるプロセスを通じて、「深い学び」が実現できる

●学習指導要領で示された見方・考え方(着目点)については、各単元(章)の学習で、模式図やイラストを用いて分かりやすく説明し、さらに概念の理解を深められる問いを見方・考え方コーナーに示しました。捉えた見方・考え方は、「みんなでチャレンジ」や1単位時間の「チェック&トライ」など、公民学習全体を通じて働かせる場面を設けることで、無理なく現代社会の見方・考え方に習熟でき、深い学びが実現できます。

➡ 20, 41, 54, 103ページなど

➡54ページ

**見方・考え方**

①人の支配と法の支配のちがいを考えましょう。  
 ②個人として尊重されるために、法の支配が重要な理由を説明しましょう。

③権限を受けた本(小林多喜二の作品) 第二次世界大戦以前は、政府が本や新聞を検閲し、政府にとって都合の悪いことが書かれた部分をふせぎにさせたり、本や新聞自体を発行禁止にしたりしました。

④検閲によって制限された自由は、目のどれか、挙げましょう。  
 ⑤検閲や検閲はなぜ問題か、「個人の尊重」の観点から考えましょう。

④SDGsなどの、現代的な諸課題を解決するための意識と態度を育てる

●学習指導要領で「国際連合における持続可能な開発のための取組」を扱うとされた第5章「地球社会と私たち」では、導入で、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を理解させる活動を取り上げ、国際社会が抱える諸課題の理解を促します。

➡180ページ

●社会科の3年間の学習を貫く、「環境・エネルギー」「伝統・文化」「人権・平和」「防災・安全」「情報・技術」の五つのテーマで、様々な課題や克服のための取り組みを扱い、現代的な諸課題の解決のための意識と態度を育てられます。

●**環境・エネルギー** 本文や「もっと公民」で、地球規模の環境問題や日本のエネルギー政策の現状を取り上げ、持続可能な社会の実現に必要な取り組みを構想させ、環境やエネルギーの問題への意識を高められます。 ➡ 192-197ページなど

●**人権・平和** 本文や「もっと公民」で、平等権や先住民族の権利を取り上げ、アイヌ民族の権利の保障や新しい取り組みを理解させ、人権や平和への意識を高められます。

➡ 50-53, 72-74ページなど

●**伝統・文化** ※本紙4ページ参照 ➡51ページ

●**防災・安全** 「もっと公民」で、東日本大震災の具体的な事例を提示しながら、行政の様々な取り組みや人々の協力を取り上げ、防災や安全の意識や態度を養えます。

➡ 124-125ページなど

●**情報・技術** 情報通信技術の進展による社会の変化について、農業や流通などの具体的な事例を通して理解させ、社会の変化に対応するための基礎的な素養を養えます。

➡ 14-17ページなど

**導入の活動** SDGsから地球規模の課題についてとらえよう

SDGsって何だろう?  
 SDGsとは Sustainable Development Goals の略で、「持続可能な開発目標」と訳します。2015年に国際連合(国連)に加盟する193か国の全てで賛成して採択されました。SDGsは、地球規模の課題を17の領域に分け、課題の解決に向けて、2030年までに達成することを目標とした目標(ゴール)です。例えば、以下のような目標があります。

世界が直面している主な課題とゴール

2016年には、世界で64万人の子どものうち、5歳の誕生日をむかえる前に死んでいます。世界で死亡した人の約20%は、マラリアや結核などの感染症が死亡原因です。

世界には、学校に通うべき年齢の子どもたちが、通うことができない割合は約12%で、約1億3000万人います。このうち約20%が、紛争が起こっている地域に暮らす子どもです。

水不足や衛生状態の悪さが原因で、毎年、数百万人が死亡しています。2050年までに、全世界の個人一人一人が水不足の環境にある状態で生活することになると考えられています。

3 健康と福祉を  
4 質の高い教育をみんなに  
6 安全な水とトイレを世界中に

**公民にアクセス** 北海道白老町に造られる国立アイヌ民族博物館

2014(平成26)年に、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターを北海道白老町に造ることが閣議決定されました。その後のアイヌ政策推進会議では、国立アイヌ民族博物館とナショナルセンターの名称が決定されました。国立アイヌ民族博物館は北海道で初めての国立博物館で、全国にある国立博物館の中で最も北端に位置します。現在、2020年4月の開館に向けて整備が進められています。

国立アイヌ民族博物館は、ポロト湖畔に造られる民族共生空間の一つです。体験交流ホールや国立民族共生公園と一体となって、アイヌの歴史や文化等に関する理解をうながし、アイヌ文化の継承と新たなアイヌ文化の創造を促す拠点となります。

国立アイヌ民族博物館は、アイヌの人々の言語や伝統、衣食住、周りの民族との交流などをテーマに、さまざまな資料やAR技術を活用して紹介し、来館者がアイヌ文化と現代のつながりについて理解を深められる施設になる予定です。展示室を案内するツアーガイドや会議室での講演、アイヌの文化を体験できるワークショップなどの企画が検討されています。世界に向けて、アイヌの文化の継承と創造を発信していくことが期待されています。

国立民族共生空間が造られるポロト湖畔の完成予想図

ポロト湖 伝統的コタン 体験交流ホール 民族共生公園 国立アイヌ民族博物館

**18歳へのステップ** 選挙の流れ

衆議院議員総選挙の場合

期日前投票・不在者投票もできます

選挙の流れ

18歳へのステップ

選挙の流れ

期日前投票・不在者投票もできます

選挙の流れ

選挙の流れ

⑤公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う

●選挙権年齢と成年年齢の満18歳以上への引き下げに対応して、実際の選挙の流れや契約における注意点を理解できる「18歳へのステップ」を設けました。実物資料や身近で具体的な設定のクイズを豊富に紹介しながら、ビジュアルな紙面で効果的に主権者意識を高められます。

➡ 88-89, 136-137ページ

➡88ページ

●職業の様子ややりがいなどを語るインタビューコラムを充実させ、具体的な職業を身近なものとして感じることで、勤労観や社会参画の意識を高められます。➡ 67, 146, 167, 203, 218ページなど

●終章「より良い社会を目指して」では、中学校社会科の学習のまとめとして、地理・歴史・公民の学習で習得した知識や技能、活用してきた見方・考え方を使いながら、より良い社会の在り方を構想することで、社会参画の意識や態度を養えます。➡ 213-218ページ



## 2 構成・配列

### ① ICTを活用したカリキュラム・マネジメントを可能にする教材構成

**小・中の系統性** 各単元(章)の導入部に、小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返るページを設け、小・中の学習を円滑に接続できます。

➡ 37, 75, 127, 179ページなど

➡179ページ

**3分野の関連** 3年間の社会科学習を貫く五つのテーマ(本紙2ページ参照)について、3分野共通の題材や、分野をまたがる共通の資料を扱い、分野関連マークを付すことで、多面的・多角的な学習ができます。

➡ 16, 36, 72-73, 117, 168ページなど

➡16ページ



**他教科との関連** 他教科でも扱う学習内容には、教科関連マークを付し、教科を横断した学習の確認ができます。

➡ 14, 125, 136ページなど

➡136ページ



**Dマークコンテンツ** Dマークや二次元コードが付いている部分では、教科書5ページに掲載した二次元コード・URLなどからリンクすることで、地理や歴史の関連する紙面や、他教科の紙面を確認できます。また、生徒のつまづきを補うシミュレーションや動画などのコンテンツも収載しています。

➡ 5, 151, 196ページなど

➡196ページ



**デジタル教科書** 制度化された学習者用デジタル教科書を発行予定です。

### ② 公民学習を効果的にする構成の工夫

●巻頭と巻末で、五つのテーマに関わる社会的事象の写真を大きく取り上げ、公民学習を通して五つのテーマを意識しながら学習できます。また、公民学習を受けて、これからの自分を構想する活動を設け、社会的事象を自分事としてとらえる公民的資質を育むとともに、キャリア形成の意識も高められます。➡ 巻頭、巻末など

➡巻末2-巻末3ページ



## 3 内容の程度・分量

### ① 見開き1単位時間の構成で、柔軟な指導計画の作成が可能

●本文は見開き2ページで1単位時間を原則にしています。  
●目次・索引、巻末資料などを除いたページ数は213ページで、標準授業時数100単位時間のうち、5単位時間の予備時間を設け、柔軟な指導計画の作成が可能です。

### ② バランスの良い配当時数

●授業時数は、公民学習の導入に1単位時間、1章に13単位時間、2章に16時間、3章に23単位時間、4章に24単位時間、5章に14単位時間、終章に4単位時間を配当しており、適切な配当といえます(本紙5ページの「対照表」参照)。

### ③ 学習指導要領の内容に沿った構成と理解しやすい本文記述

●内容の程度・範囲は、学習指導要領に示された内容を基に構成し、文章も敬体(ですます体)を用い、因果関係を明確に記述する一方、中学生の発達段階を考慮した、平易な表現を使用しています。

## 4 学習指導要領・現代的な諸課題への対応

### ① 公民的分野の基礎的・基本的な知識・概念を確実に定着させる

- 見開き1単位時間の紙面を、「興味・関心を喚起する導入資料→学習のめあてを示す『学習課題』→丁寧に分かりやすい本文→学習内容の整理とまとめ『チェック&トライ』(右ページ下)」の流れで構造化し、学習内容が確実に定着できます。
- 各単元(章)の終結部には、学習した知識・概念を確認する、「基礎・基本のまとめ」を設け、定着の確認と振り返りができます。▶ 33, 69, 121, 175, 209ページなど
- 公民の学習を進める上で必要不可欠な事項や、生徒がつまづきやすい事象については、巻末の「用語解説」で簡潔な説明を加えることで、確実に定着できます。▶ 248-253ページ

### ② 資料収集・読み取りなど、公民学習に必要な技能を確実に身に付けさせる

- 資料収集や地図・グラフの読み取りの技能について、地理・歴史で身に付けた技能を基礎にしながら、様々な習得・活用場面を通して身に付けられます。
- ・「スキル・アップ」を設け、具体的な資料を使い、メディアリテラシーや「需要量や供給量と価格の関係」のグラフの読み取りなどの、公民学習に必要な技能を確実に定着できます。

▶ 45, 81, 85, 101, 133, 161ページなど

- ・小学校社会科や「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用する「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを設け、1単位時間の授業を中心に、課題解決的な学習のための情報収集や読み取り、まとめの技能を身に付けられます。

▶ 18, 74, 113, 142, 154, 178, 212ページなど

**集める** 身近な地方公共団体では、どのような条例が定められているか、調べましょう。

↑113ページ

**まとめる** パレスチナ問題の中で起こっている対立について、民族や宗教などを整理してまとめましょう。

↑212ページ

▶18ページ

**スキル・アップ 9 読み取る** 円高・円安の影響について考えよう

円高・円安が、私たちの生活や日本の経済全体にあたる影響について考えよう。

(1)図1は、円高・円安のときに、海外旅行者が受ける影響です。空欄に入る数字を考えよう。

(2)図2は、円高・円安のときに、輸出・輸入中心の企業が受ける影響です。空欄に入る数字を考えよう。

(3)円高・円安は、海外旅行者や輸出・輸入中心の企業に、それぞれどのような影響をあたるか、まとめ1・2で( )内のどちらかを選びましょう。

**図1 日本から海外へ旅行する場合**

円高	1ドル=80円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円
円高	1ドル=100円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円
円高	1ドル=120円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円
円安	1ドル=80円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円
円安	1ドル=100円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円
円安	1ドル=120円	アメリカに旅行するときに、アメリカの物を買ったとき	円

**図2 輸出・輸入する場合**

円高	1ドル=80円	日本からアメリカへ輸出するとき	円
円高	1ドル=100円	日本からアメリカへ輸出するとき	円
円高	1ドル=120円	日本からアメリカへ輸出するとき	円
円安	1ドル=80円	日本からアメリカへ輸出するとき	円
円安	1ドル=100円	日本からアメリカへ輸出するとき	円
円安	1ドル=120円	日本からアメリカへ輸出するとき	円

**まとめ1** 日本からアメリカなどの海外へ旅行に行くなら、(円高・円安)のときのほうが有利である。

**まとめ2** 日本の自動車などの輸出企業は、(円高・円安)のときのほうが、海外での売りが増える。

↑161ページ

**2 日本の招き猫(左)と外国向けの招き猫** 招き猫は、日本の土産として人気です。

**2のちがいを読み取り、そのちがいが理由を、日米の文化のちがいに注目して調べましょう。**

### ③ 我が国の伝統と文化を、広い視野に立って考え、国土や歴史に対する理解と愛情を深める

- 日本の領域について学習する単位では、我が国が抱える領土をめぐる問題やその背景を取り上げ、問題を正しく理解し、国際平和のために解決すべき課題であることを意識できます。

▶ 184-185ページなど

▶184ページ

**2 領土をめぐる問題の現状** 問題は、固有の領土をめぐる問題をかかえ、どのような解決への取り組みを行っているのでしょうか。

日本は、第二次世界大戦後、平和主義を基本原則とする日本国憲法の下で国際協調を進め、平和で民主的な国家を造り上げてきました。しかし、その一方で、日本固有の領土をめぐる、現在でも周辺諸国との間で問題をかかえている地域も残されています。韓国やロシアに不法に占拠され、抗議を続けている竹島や北方領土。また、日本の固有の領土であり、領土問題は存在しない一方で、中国や台湾が領有権を主張している尖閣諸島がそれに当たります。

ここでは、それぞれの問題が起こった経緯や、解決に向けた日本の取り組みについて見ていきましょう。

**日本の領域と排他的経済水域**

- 「もっと公民」やコラムで、オリンピック・パラリンピックや、アイヌ文化などを取り上げ、歴史的背景や現状、今後の動きを理解することで、我が国や郷土に対する理解や愛情を深められます。

▶ 36, 51, 72-73ページなど

▶36ページ

**もっと公民** オリンピック・パラリンピックと日本の心

オリンピック・パラリンピックが果たす役割について、考えましょう。

オリンピック・パラリンピックは(OMOTENASHI)の心で2020年、夏季オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。2013年の、開催地を決める最終投票直前のプレゼンテーションでは、日本の心として「OMOTENASHI(おもてなし)」という言葉が紹介され、流行語にもなりました。オリンピック・パラリンピック開催期間中には、訪日する多くの外国人に、通訳などのボランティアスタッフが対応し、日本のおもてなしの心が世界中に発信されるでしょう。

一方、東京都市を中心に、道路標識などに英語表記や簡易書体、ピクトグラム(絵記号)を加えることで、外国人にも分かりやすくする変更も行われています。

オリンピック・パラリンピックと日本の文化

オリンピック・パラリンピックは、世界規模のスポーツ競技会であると同時に、さまざまな文化が世界中に発信される機会でもあります。オリンピックの競技の中にも、例えば日本で生まれた柔道や空手のように、日本の文化が国際社会に広がった例もあります。開催国全体で一体となって盛り出される、外国人をもかかえる準備や、開催中の競技や観戦などを通して、さまざまな国の文化を理解し、交流が進むことで、国際平和につながることも期待されているのです。

- 国宝・重要文化財、世界遺産、世界の記憶、無形文化遺産にはマーク(宝 重 世 記 無)を付し、文化財を通して我が国の伝統や文化に対する理解と愛情を育てられます。

## 5 特別支援教育に関わる適切な配慮

- 特別支援教育の観点から、立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、学習者が学習に必要な情報に集中できます。
- 資料の掲載部分を、文字などの読み取りに支障のない地色を敷いて区別することで、紙面の構造を明確化し、特別支援教育の観点での学習のしやすさを向上させています。

- 教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすさを向上させています。
- 色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフや地図などでは、凡例を使用せずに図中に直接示すようにしたり、読み取りづらい破線や点線を極力減らしたりしました。
- 小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮し、読み取りやすいゴシック体の振り仮名を採用し、視認性を確保しながら黒色を抑えることで、紙面の雑然とした印象を軽減し、読み取りやすさを向上させています。

## 6 ▶ 印刷・造本

### ①生徒が使いやすい造本面の工夫

- 視覚的効果が高い幅広の判型(AB判)を用い、資料を豊富に掲載するとともに、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすく印象的な紙面構成になっています。
- 様々な教科の教科書を持ち歩く生徒の負担に配慮して、過度な重量にならないように、ページ数を抑え、軽くて裏写りせず、強度の高い紙を使用しました。
- 針金綴じを用いて製本するなど、造本は堅牢で、長期間の使用にも十分耐えられます。

### ②用紙等の環境への配慮

- 用紙には、強度と発色性とを兼ね備えた質の高い再生紙を使用して環境に配慮するとともに、文字や図表、写真などの資料が読みやすく、色映えするように工夫しています。
- 印刷用のインキは、環境に配慮した植物油インキを使用しています。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
持続可能な社会の実現に向けて／公民学習の初めに	A-(1)	巻頭-1ページ	1
第1章 現代社会と私たち	A-(1),(2)	6-36ページ	13
導入	A-(1)	6-7ページ	1
1節 現代社会の特色と私たち	A-(1)	8-17ページ	4
2節 私たちの生活と文化	A-(1)	18-23ページ	3
3節 現代社会の見方や考え方	A-(2)	24-32ページ	4
まとめ	A-(2)	33-36ページ	1
第2章 個人の尊重と日本国憲法	C-(1)	37-74ページ	16
導入	C-(1)	37-39ページ	1
1節 人権と日本国憲法	C-(1)	40-49ページ	5
2節 人権と共生社会	C-(1)	50-61ページ	6
3節 これからの人権保障	C-(1)	62-68ページ	3
まとめ	C-(1)	69-74ページ	1
第3章 現代の民主政治と社会	C-(2)	75-126ページ	23
導入	C-(2)	75-77ページ	1
1節 現代の民主政治	C-(2)	78-89ページ	6
2節 国の政治の仕組み	C-(2)	90-109ページ	10
3節 地方自治と私たち	C-(2)	110-120ページ	5
まとめ	C-(2)	121-126ページ	1
第4章 私たちの暮らしと経済	B-(1),(2)	127-178ページ	24
導入	B-(1),(2)	127-129ページ	1
1節 消費生活と市場経済	B-(1),(2)	130-139ページ	5
2節 生産と労働	B-(1),(2)	140-149ページ	5
3節 市場経済の仕組みと金融	B-(1)	150-161ページ	6
4節 財政と国民の福祉	B-(2)	162-169ページ	4
5節 これからの経済と社会	B-(2)	170-174ページ	2
まとめ	B-(1),(2)	175-178ページ	1
第5章 地球社会と私たち	D-(1)	179-212ページ	14
導入	D-(1)	179-181ページ	1
1節 国際社会の仕組み	D-(1)	182-191ページ	5
2節 さまざまな国際問題	D-(1)	192-203ページ	5
3節 これからの地球社会と日本	D-(1)	204-208ページ	2
まとめ	D-(1)	209-212ページ	1
終章 より良い社会を目指して	D-(2)	213-218ページ	4
		予備時間	5
		合計	100

※予備時間は、生徒の自主的な学習活動の時間や評価などに充てる時間です。